

Chorus Ohyama 合唱団おおやま

95年8月に日大町民を中心に結成。96年8月に第1回の「夏のメサイア」を公演。
以来、毎年夏にオーケストラとの共演による公演を重ね、今年が13回目の演奏会となる。
オーケストラ・アンサンブル金沢とは11回目の共演。
富山市大山文化会館で、毎週水曜日夜、練習を行っている。

合唱団おおやまでは、団員を募集しています。練習見学歓迎します。
お問合せは富山市大山文化会館(076-483-0001)まで。
<http://ww2.ctt.ne.jp/~ohyama/>



ソプラノ 岩竹 幸絵 / 岩竹 李奈 / 岡本 祀子 / 岡本 洋子 / 加藤 一美 / 武部 由貴美 / 谷崎 キミ子
谷崎 千鶴 / 谷崎 千紗 / 谷本 真理子 / 松井 千代美 / 宮原 百合子 / 山崎 忍 / 山崎 陽子

アルト 麻島 利子 / 稲垣 聖子 / 井上 澄子 / 桶谷 道子 / 奥野 知子 / 片山 美富里 / 木村 まゆみ
小泉 康子 / 高木 茂子 / 高田 琴織 / 仲井 葉子 / 中川 律子 / 長原 啓子 / 平崎 康子
村椿 伸子 / 山崎 尚美 / RICA FRENTE, JENNIFER TIDOR

テノール 井内 学 / 大崎 晴夫 / 坂上 佳央 / 谷崎 修一 / 三羽 康嗣 / 山崎 勝幸

バス 窪田 英史 / 中村 諭 / 野尻 芳邦 / 松井 輝 / 丸山 隆 / JOSE LEDON JR.

合唱指揮 内山 太一

武蔵野音楽大学声楽科卒 ミュンヘン国立音楽大学声楽科卒。シューベルトの三大歌曲集「美しき水車小屋の娘」「冬の旅」「白鳥の歌」等ドイツ歌曲のリサイタルを数多く開催。藤原歌劇団公園のオペラやメサイア、ベートーベン第九等数多くのコンサートに出演。NHKFM等ラジオ、テレビにも出演。1993年再度一年間ドイツに留学。これを機に故郷上市を拠点に演奏活動

を展開している。合唱団おおやまの他、入善混声合唱団、男声合唱団「ジョイフル・フレンズ」、黒部第九を歌う会、上市町子供の城児童合唱団、大地の会女声合唱団等の指導。元武蔵野音楽大学声楽科講師 元洗足学園魚津短期大学声楽科講師、声楽研究グループ 大地の会主宰

Orchestra Ensemble Kanazawa

管弦楽 オーケストラ・アンサンブル金沢

1988年、世界的指揮者、岩城宏之が創設音楽監督を務め、多くの外国人を含む日本最初のプロの室内オーケストラとして石川県と金沢市が設立。2001年開館した石川県立音楽堂を本拠地とし、年20回の定期公演、東京・横浜・名古屋・大阪での定期公演など年間約110公演を行っている。また、海外公演も多く、ヨーロッパ、アジアなどこれまで13回に及ぶ。コンポーザー・イン・レジデンスの実施、多くのCD制作、子供たちの指導、邦楽との共同制作など積極的に取り組んでいる。07年1月、井上道義新音楽監督が就任し、新たな活動を展開。2008年に設立20周年を迎え、さらなる活躍が期待されている。



2008 Chorus Ohyama with Orchestra Ensemble Kanazawa



第13回演奏会

合唱団おおやま

with オーケストラ・アンサンブル金沢

とき / 2008年8月24日(日) 13時30分開場 14時開演 ところ / 富山市大山文化会館

主催 / 富山市・合唱団おおやま・(財)石川県音楽文化振興事業団 共催 / 北日本新聞社 後援 / FMとやま ©富山市の助成金により低料金で鑑賞できます。

- # 1 混声合唱組曲「遙かなものを」
- 作詞 伊藤海彦
作曲 大中 恩
- 野道で
 - 霧のなかで
 - 峠
 - 夜
 - 山頂

大中恩(おおなか めぐみ1924(大正13)~)は、終戦直後から合唱団の指導の傍ら、数多くの歌曲や合唱曲を作曲している。この曲は昭和42年11月の作品で、コールMeg(大中の指導・指揮で大中の曲のみを歌う合唱団)により放送初演された。

日常生活に別れを告げ、あこがれの山へ旅立つ「野道で」。尾根道の「霧のなかで」私が探す道、私が探すもの。登りつめた「峠」で見る、空の青さとめざす頂。大自然の中の「夜」のキャンプ・ファイア。道はここで終わり、また道はここから始まる、「山頂」で迎える夜明け。

「山を愛する若者達の“遙かなもの”へのあこがれ、希望、努力などを清冽かつ豪快に歌い上げたつもりです。ピアノ伴奏もまた合唱と共に雄大に叫び、あるいはこまやかにささやきかけます。」(大中恩)



指揮:三河 正典
Masanori Mikawa, Conductor

東京芸術大学作曲科および指揮科に学んだのち、パリ・エコール・ノルマル音楽院に留学し満場一致の首席で卒業。作曲を、北村昭、佐藤真、近藤謙、池野成の各氏に、指揮を小林研一郎、松尾葉子、ドミニク・クレイツ、秋山和慶、河地良智、の各氏に師事。更にムスティスラフ・ロストロポーヴィチ氏の下で研鑽を積む。これまでに、日本フィル、読売日本響、オーケストラ・アンサンブル金沢、群馬響、名古屋フィルなど、国内各地のオーケストラに客演する他、新国立歌劇場、二期会などオペラ公演の音楽スタッフとしても活動している。2005年より07年まで日本フィル指揮研究員を務める。東京芸術大学および東京音楽大学・同大学院指揮科非常勤講師。

- # 2 J-POP
- 粉雪 (レミオロメン)

作詞・作曲 藤巻亮太
編曲 若林千春・倉知竜也
 - Jupiter (平原綾香)

作曲 ホルスト
作詞 吉元由美
編曲 松下 耕・倉知竜也
 - 桜 (コブクロ)

作詞・作曲 小渕健太郎・黒田俊介
編曲 倉知竜也
 - 涙そうそう (夏川りみ)

作詞 森山良子
作曲 BEGIN
編曲 倉知竜也
 - 鳥唄 (THE BOOM)

作詞・作曲 宮沢和史
編曲 倉知竜也

おなじみのJ-POPを今回の演奏会のために名古屋在住の作曲家倉知竜也氏に合唱+ピアノ+弦楽オーケストラの編成に編曲していただいた。

【粉雪】2005年発売。ドラマ「リリットの涙」の挿入歌に使用され、発売前から大きな話題となった。レミオロメンは、山梨県笛吹市出身の3人組のバンド。2000年結成。元の若林千春編曲版は、2006年度NHK学校音楽コンクール全国大会高校の部のスペシャルステージのために書き下ろされたピアノ伴奏の混声4部合唱曲。今回演奏するのは、これに倉知竜也が弦楽オーケストラを書き加えたものである。

【Jupiter】グスターヴ・ホルストの管弦楽組曲「惑星」の第4曲「木星」の主題の一つをモチーフにして、詞をつけたもの。2003年発売。当時現役音大生だった平原綾香のデビュー作。2004年の新潟県中越地震の際、被災者を勇気付ける応援歌として、新潟県内のラジオ局で多くリクエストされた。この曲も、2005年度NHK学校音楽コンクール全国大会中学校の部のスペシャルステージのために編曲されたピアノ伴奏の混声4部合唱曲に、今回弦楽オーケストラを加えたものである。

【桜】某会社のトップ・セールスマンだった小渕が週末、息抜きのストリート・ライブをしていて、同じく路上で音楽活動をしていた黒田と知り合い、デュオを組んだのが1998年。名前は、小渕の「コブ」と黒田の「クロ」で「コブクロ」。2001年のメジャー・デビュー以来数々のヒットを飛ばしているこのデュオの代表作が、2005年発売のこの曲である。

【涙そうそう】森山良子の依頼でBEGIN(沖縄県石垣市出身)が作曲。デモテープに書いてあった「涙そうそう」というタイトルが沖縄の言葉で「涙がぼろぼろこぼれ落ちる」意味であると聞き、森山が若くしてこの世を去った兄を想う歌詞をつけた。1998年森山良子がアルバムに収録。2000年BEGINがシングル・リリース。2001年BEGINと同郷の夏川りみがシングル・カバーし、大ヒットした。

【鳥唄】甲府生まれの宮沢和史が何度も沖縄を訪れるうちに、沖縄の文化とその美しい風景の裏にある悲しい戦争の歴史に胸打たれて書いた曲。三線(さんしん)を取り入れ、琉球音階で書かれたこの曲は、日本のみならず、アルゼンチンなど海外でも大ヒットしている。1992年、沖縄の方言で歌われたウチナーグチ・ヴァージョンが沖縄で大ヒット。標準語のオリジナル・ヴァージョンが1993年全国で発売された。「鳥唄」とは、もともと奄美大島の民謡を指す言葉だが、現在、この歌の影響で、琉球民謡の意にも使われ始めている。

- # 3 モーツァルト セレナード第13番ト長調K525「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
- (Wolfgang Amadeus Mozart "Eine Kleine Nachtmusik")
- 第1楽章 アレグロ
 - 第2楽章 ロマンツェ(アンダンテ)
 - 第3楽章 メヌエットとトリオ(アレグレット)
 - 第4楽章 ロンド(アレグロ)

セレナードは、元来、恋人の窓の下で恋人に捧げるために演奏される曲の意味で、古くは「小夜曲」と訳されていた。この曲の題名もドイツ語で「ひとつの(アイネ)小さな(クライネ)夜の(ナハト)音楽(ムジーク)」、つまりは「小夜曲」となる。

モーツァルト(1756-1791)が31歳だった1787年の作品。モーツァルトの13曲あるうちの最後のセレナードで、最も有名なセレナードである。

元は5つの楽章でできていたらしいが、現在の第1楽章の後にあったメヌエットが何らかの事情で抜け落ち、弦楽のための小交響曲といった構成になっている。しかしその音楽は、いかにもセレナードらしい明るく開放的な爽やかさを持つ曲である。



ピアノ:清水 香里
Kaori Shimizu, Pianist

桐朋学園音楽学部演奏学科ピアノ専攻を卒業後、米テキサスクリスチャン大学大学院へ留学。帰国後、「北日本新聞ホール推薦演奏家Vol.11清水香里ピアノリサイタル」「北陸VISAカードXImas清水香里ピアノリサイタル」等、ソリストとして幅広く演奏活動を展開。また、富山市民文化事業団主催「市民オペラ・アイダ2001」「お小夜」「ジョン・ジョン指揮オペラ「カルメン」」、富山県合唱連盟主催「第九〜歓喜の夕べ」、糸魚川地域ニュー里創プラン「歌劇・奴奈川姫」、富山県高岡文化ホール主催「フィガロの結婚」等、県内外の劇場が制作するオペラやミュージカルのコレペイトウを務める。また、伴奏者・室内楽奏者としても活躍。その活躍は多岐にわたり、富山の音楽シーンに欠かせない存在である。現在、桐朋学園子供のための音楽教室講師、富山県立高岡西高校非常勤講師、ピアノ教室主宰。

- # 4 アルヴォ・ペルト 合唱と弦楽オーケストラのための「ベルリン・ミサ」
- (Arvo Pärt "Berliner Messe" für Chor und Streichorchester)
- Kyrie キリエ——主よ、憐れみたまえ
 - Gloria グロリア——いと高きところで神に栄光が
 - Erster Alleluia zum Weihnachtsfest 降誕祭(クリスマス)の第1アレリヤ唱——主は私に言われた
 - Zweiter Alleluia zum Weihnachtsfest 降誕祭(クリスマス)の第2アレリヤ唱——聖別された日がわれらを照らした
 - Veni Sancte Spiritus ヴェニ・サンクテ・スピリトゥス——来てください、聖霊よ
 - Credo クレド——私は信じます、唯一なる神を
 - Sanctus サンクトゥス——聖なるかな、万軍の神たる主
 - Agnus Dei アニウス・デイ——神の子羊

合唱と弦楽オーケストラのためのミサ曲。ベルリンの壁崩壊(1989年11月)直後の1990年にベルリン(ドイツ)で行われた第90回カトリック教徒大会の委嘱で作曲された。ペルトは1935年、バルト三国のひとつ、エストニア生まれの作曲家。

ペルトの音楽は、「静謐(せいひつ)」、「透明」と評される。ゆったりとしたテンポ。拍数が小節ごとに変わる(小節が単語ごとに区切られる)ことによるリズム感の喪失。さらに、たとえば本曲のキリエ、グロリアは短調(G mol)だが、ソプラノとテノールが短調の主和音であるG(ソ)、B(シb)、D(レ)のみを歌い、アルトとバスが旋律部を歌っている。これがペルトが確立したティンティナプリ(鈴鳴らし)様式と呼ばれるものであるが、ソプラノとテノールの作る和音の中をアルトとバスが動くことによってしばしば表れる2度の不協和音(鈴が鳴っているように聞こえる。)が、一層「静謐」で「透明」な美しい世界を醸(かも)し出している。

本曲は、キリエで始まり、アニウス・デイで終わるミサ通常文(1,2,6~8)の中に、クリスマス・イブの真夜中のミサのアレリヤ唱(3)、クリスマス第3ミサのアレリヤ唱(4)、聖霊降臨祭ミサのアレリヤ唱2曲とセクエンツィア(続唱)(5)が挿入されている。この5曲は、選択して演奏できることになっており、今回はクリスマスのアレリヤ唱と続唱を演奏する。

「私の音楽は、あらゆる色を含む白色光にたとえることができよう。プリズムのみが、その光を分光し、多彩な色を現出させることができる。私の音楽におけるプリズムとは、聞く人の精神に他ならない。」(アルヴォ・ペルト)

